

大阪・関西万博 会場内における滋賀県ゆかりの施設等



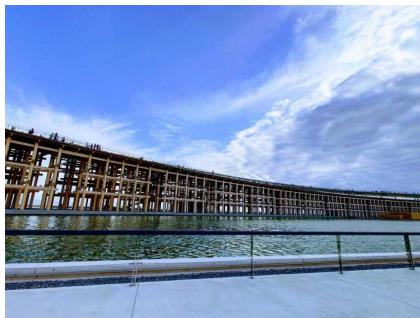
令和7年(2025年)4月22日時点

項目	滋賀との関係	エリア	
関西パビリオン	滋賀県ブース(常設) 多目的エリアで滋賀魅力体験ウィークを実施(6月上旬・8月下旬)	東ゲートゾーン	
EXPOホール	滋賀県デイ(7/24)の会場	東ゲートゾーン	
いのちの未来 (シグネチャーパビリオン)	石黒浩氏(高島市出身)がプロデュース	シグネチャーゾーン	
いのちの遊び場クラゲ館 (シグネチャーパビリオン)	信楽焼のレンガや椅子が使用されている (プロデューサー:中島さち子氏)	シグネチャーゾーン	 EARTH MART
EARTH MART (シグネチャーパビリオン)	屋根に近江八幡市円山町(西の湖)のヨシが使用されている (プロデューサー:小山薰堂氏)	シグネチャーゾーン	
いのちめぐる冒険 (シグネチャーパビリオン)	プロデューサーの河森正治氏が令和6年7月より、(株)人機一体(草津市)の人型重機(ロボット)の共同開発プロジェクトに参画 河森氏には本県でもご講演いただいた(R7/3/26万博しが)	シグネチャーゾーン	 信楽焼テーブル・スツール
信楽焼のテーブル・スツール	信楽陶器工業協同組合が製作 (Co-Design Challengeプログラム(万博の公式プログラム))	フューチャーライフゾーン フューチャーライフビレッジ内	
運営スタッフ(※)の帽子 ※主に屋外で従事	高麻(株)(高島市)が製作した、琵琶湖岸のヨシを素材とする生地から製作	—	 運営スタッフ帽子
サービスアテンダント(※)の インナーシャツ ※主に屋内で従事	(株)ピエクレックス(野洲市)が製作	—	

滋賀県ゆかりの建築家 が手がけた万博施設

万博は、建築の祭典ともいわれます。
施設を手がけた建築家には、滋賀県ゆかりの方多くいます。

① 大屋根リング



設計 藤本壯介 他

「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの理念を表す大阪・関西万博会場のシンボルとなる建築物です。万博会場デザインプロデューサーでもある藤本氏は、守山市立浮氣(ふけ)保育園を手がけています。

② EXPOナショナルデーホール

設計 安井・平田設計共同企業体 他

式典会場、飲食施設、ギャラリーなどを兼ね備えた建物です。

設計チームに名を連ねる平田晃久氏は、守山市にある伊勢遺跡史跡公園の遺構展示施設を手がけています。



③ シグネチャーパビリオン 「Dialogue Theater -いのちのあかし-」

設計 (株)SUO一級建築士事務所

廃校となった校舎を活用した建物です。周防貴之氏がデザインを担当されています。

周防氏は、彦根東高校から慶應義塾大学大学院に進み、建築を学ばれました。



④ 休憩所 1

設計 大西麻貴+百田有希/o+h

人間の五感を使って感じられる、生き物のような建築というコンセプトです。

大西氏らは、多賀町中央公民館

「多賀結いの森」の意匠設計をされています。



⑤ トイレ 2

設計 小林広美 + 大野宏 + 竹村優里佳

大坂城再建のために切り出されたものの、利用されなかった残念石と呼ばれる石を使用した建物です。小林氏は、甲賀市のご出身で、滋賀県立大学を卒業されています。

